

2023年度

入学試験問題

国語

(時間 50分)

注意事項

1. 指示があるまで、問題用紙は開かないこと。
2. 問題は **一**～**四** の4問あります。
3. 「解答用紙」は表紙の裏側になっています。
4. 「解答用紙」には答え、受験番号、名前だけを記入しなさい。

一 後の問いに答えなさい。

問一 次の①～⑤の文には誤った漢字が一字使用されている。例にならって誤った漢字を抜き出して、正しい漢字に直しなさい。

例 私たちは以頼人のために、仕事をしている。 誤 以 ↓ 正 依

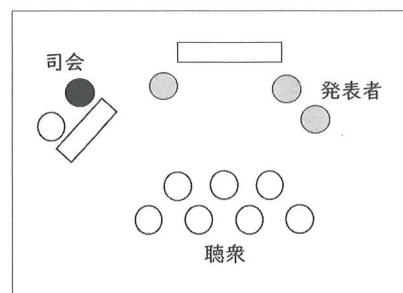
- ① 大雨の影響のため、幹線道路で車が渋滞してしまい、遅刻してしまった。
- ② 理科の研究課題で昆虫の特徴を調べて、期限内に提出することができた。
- ③ 社会科の授業で平家の衰退と滅亡、鎌倉幕府の成立について学習した。
- ④ 家庭科の授業で染織による洗濯方法や、干す場所の違いについて学んだ。
- ⑤ 老久化した市役所を建て直すための費用についての説明を行なった。

問二 次の表は、アイディアを出し合ったり、話し合いをしたりするときの方法についてまとめたものである。空欄①～⑤に当てはまる話し合いの方法として適切なものを、それぞれあとのア～オから選んで記号で答えなさい。

アイディアを広げる		一定の結論を出す		考えを深める	
グループ	全体	グループ	全体	立場が2つ	立場が3つ以上
ブレインストーミング	①	ディスカッション	③	④	⑤

ア

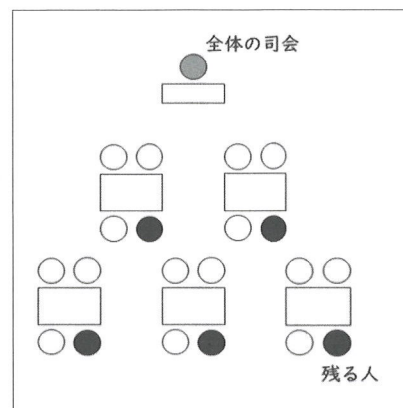
パネルディスカッション



- ・各グループの発表者が意見を述べる。
- ・聴衆も参加して質疑応答を行なう。

イ

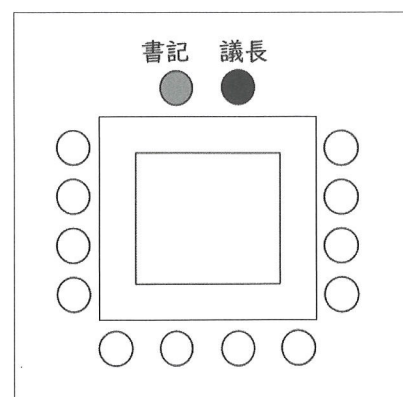
ワールドカフェ



- ・グループでアイデアを出し合う。
- ・何度もグループのメンバーを変えて意見を交換し合う。

ウ

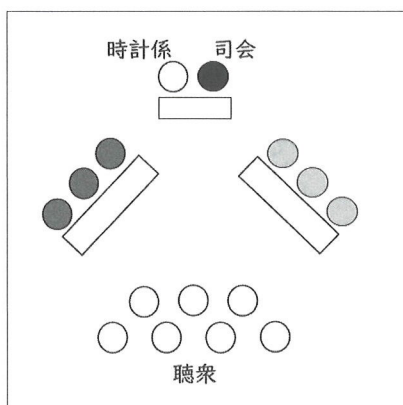
会議



- ・議題に沿って質疑応答、意見交換を行なう。
- ・採決をとり、決定事項を確認する。

エ

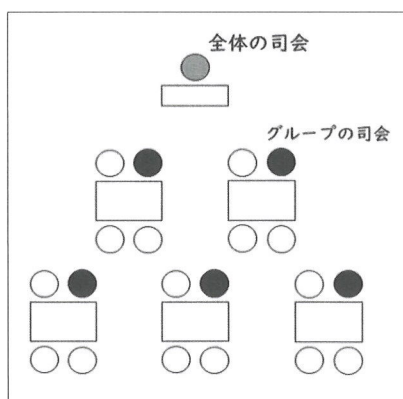
ディベート



- ・あるテーマに対して肯定と否定に別れて立論、質疑応答を行なう。
- ・最後に聴衆が判定をする。

オ

バズセッション



- ・各グループで意見を出し合う。
- ・各グループの司会が全体に報告する。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

〈幼稚園のクレド^{*}〉は子供向けの話ではない。基本的なことがらを扱っているのは事実だが、だといって、単純と思うのは間違いである。

この一文は、誰もが遅かれ早かれ、教室の窓から外を見て、ふと懐く疑問に答えている。自分はどうしてこんなところにいるのだろうか？ 何のために学校へ行かなくてはならないのだろうか？（a）

人は社会に順応するため、I、人間社会の根本的な成り立ちを知るために学校へ行く。人は幼くして家庭から外の世界へ送り出される。それが学校である。否も応もない。社会は教育の重要性を認識しているから、誰だろうと学校は行かなくてはならない。これは原則である。学校では、文明が依って立つ基礎について教える。まずは年端もいかないうちに子供に理解できる言葉で物事を説明するのである。

六歳の子供にむずかしい話をして意味がない。「科学的研究が明らかにするとところ、地球資源の公平な分配なくして人間社会は機能し得ない」まったくその通りで、うんざりするほど正しい発言だが、これでは子供にわからない。教師はそこで、生徒が二十人いて、ボールが五つ、イーゼルが四つ、積み木が三組、モルモットが二匹、トイレが一ヶ所、と噛み砕く。公平を願うなら、何でもみんなで分け合わなくてはならない。（b）

同様に、「人間、II、社会の建設的相互関係を見るに、暴力が総じて好ましくない結果をもたらすことは過去の例からも明らかである」と言ったところで、子供には無理だろう。これも、その通りには違いないが、ならば、社会も学校もルールは同じだと話した方が子供にはわかりやすい。人をぶたないこと、である。世の中、いいことばかりではない。これが最初のルールと結びついていることを、子供は知らなくてはいけない。人をぶてば、何でも分け合うことはできないし、公平は願えない。（c）

六歳の子供に、環境汚染や環境破壊の代償と深刻な影響を説明することは極めてむずかしい。だが、大人が幼稚園の教えを守らなかったばかりに、現代社会は大変なギセイ^①を払っている。ちらかしたら自分で後片づけをすること。使ったものは必ずもとのところに戻すこと。人のものに手を出さないこと。（d）

「歴史の時代区分は、哲学や政治論の体系化より、むしろ疾病の解明に多く規定される」^②いかにも、その通りだ。衛生の基本として、糞尿で手を汚さないように気をつけるのは、精神の汚濁を排することに劣らず大切である。III、子供にそれを教えるなら、トイレで用を足して水を流し、きちんと手を洗うように言うだけでいい。

まだこのほかにもいろいろある。子供は学校に上がったその日から、共同体や文化の基礎として重要視されていることを身の丈に合った言葉で教わる。教師はそれを「単純な X」と言うかもしれないが、その実、そこで子供が学習するのは、人間の可能性を押し広げようとした先人たちが努力を重ね、試行錯誤を繰り返して選り抜いた行動規範の精髓である。

そのことを知った子供は、やがて実験コースに進む。学んだ教訓は、日々、実践に努めなくてはならない。知識は行動に活かされてはじめて意味を持つ。人類は、ただ考えるだけでなく、実際の行いが人をして人たらしめることを、さまざまな困難を通して悟った。これは子供と大人の別なく、教室であれ、国家であれ、およそ社会と名のつくところに共通の真理である。

幼稚園で学んだはずなのに、大半の人々が本当には理解していないことがあつて、毎度ながらびっくりする。教区の牧師をしていた頃、よく人から不安を訴えられて、わたしは開いた口が塞がらなかった。「病院からまっすぐここへ来たのだが、医者が言うには、どのみち、人間、そう長いことはないさ」

わたしは怒鳴りたいのをガマンするのがやっとだった。「え？ 知らなかった？ それを聞くのに、わざわざ医者に金を払ったって？

その年で？ 幼稚園で、コップに綿を入れて、水を染ませて、種を蒔いたことがあるはずだろう。その時、どこで何をしていたね？ 生命が育つたことは、憶えているだろう？ 芽が出て、草は根を下ろした。奇跡だよ。ところが、何日かして草は枯れてしまったね。死んだんだ。命は短い。幼稚園で、コップの草が伸びて枯れるまで、君は眠りこけていたのか、それとも、家が恋しくて心ここになかったか、どうなんだ？」

口にくそ出さなかったが、わたしがこんなふうに思ったことは事実だし、この考えは間違っていない。ここで肝腎なのは、はじめから全体像を知っておくことである。生と死。生死は一事。ただ一度の短い出来事である。それを忘れてはならない。

もうひとつ、誰もがすぐに理解するとは限らないことがある。人間、ひとりきりで生きるのはまず不可能だということである。家族、友人、伴侶、治療集会、チーム、教会、その他もろもろ、人はみな、何らかの支援団体が必要としている。生きていく限り、幼稚園の教えは有効である。おもてに出るときは、手をつないで、はなればなれにならないようにすること。外は危険がいっぱいだし、ひとりぼっちは心寂しい。誰しも道連れが必要だ。何かにつけて、仲間がいれば心強い。

幼稚園で学んだことは、生涯を通じて繰り返し人の心に問いかける。多岐にわたって複雑に入り組んだ問題を提起する。講義、百科事典、聖書、社則、裁判、説教、参考書……。ありとあらゆる場面で人生は、わたしたちが学校に上がってまず教わったことを理解し、かつ実践しているかどうか、引き続き検分を怠らない。

人生の途次、人はどこかできつと、正邪、善悪、真偽の問題とカクトウする。そうしては、何度でもまたもとの場所に立ち返る。極く幼い頃、人間の基本的な理念について噛んで含めるように教えられた、あの部屋である。

Ⅳ、そこで学んだことは、文字通り人生に必要なすべてではなかった。すべてと言うにはほど遠い。しかし、何よりもまずそもその基本原則を理解しなければ、個人も社会も、その欠陥に対して大きな代償を払うことになる。反対に、これをしっかり身につけて実践すれば、本当に必要な知恵のすべては盤石の基礎を与えられるはずである。

(著 ロバート・フルガム 訳 池央耿『人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ』より)

*クレド 生活信条

問一 Ⅱ部①～⑤のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

問二 本文中 I ～ Ⅳ に入る接続詞として適切なものをそれぞれあとのア～オから選んで記号で答えなさい。

ア すなわち イ むろん ウ しかし エ および オ だから

問三 — 部A「学んだ教訓」とあるが、それは何ですか。本文中の言葉を使って七十字以内で説明しなさい。また、解答には次の言葉を使わず使用しなさい。

身の丈 行動規範

問四 空欄

X

に当てはまる語句を本文中

で区切られた中から抜き出して答えなさい。

問五

——部B「幼稚園で、コップに綿を入れて、水を染ませて、種を蒔いたこと」とあるが、筆者はこの出来事からどのようなことを学べきだと考えているか、本文中の言葉を使って三十字以上三十五字以内で答えなさい。

問六

本文中には次の一文が脱落しています。この一文を補うのに最も適切な場所を、本文中の（a）（ ）（d）から一つ選んで記号で答えなさい。

いづれも忘れてはならない戒めである。

問七

——部C「何度もまたもとの場所に立ち返る」とあるが、その説明として最も適切なものを、あとのア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

ア 人は正邪、善悪、真偽の問題と向き合い悩んだときには、教会にやってきて牧師に相談するということ。

イ 人は正邪、善悪、真偽の問題と向き合い悩むが、堂々巡りするばかりで結局答えが出せないということ。

ウ 人は正邪、善悪、真偽の問題と向き合い悩むが、問題解決のために幼稚園で学んだことを思い出すということ。

エ 人は正邪、善悪、真偽の問題と向き合い悩んだときには、自らが最も落ち着ける場所に足を運ぶということ。

問八 本文の内容を説明したものとしても最も適切なものをあとのア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア** 何でも分け合うこと、人をぶつてはいけないことを学ぶことは、地球資源の公平な分配、建設的相互関係を学ぶことに通じる。
- イ** 幼稚園で学んだ基本的なことを理解していない結果の代償として筆者は環境汚染や環境破壊、核戦争を例として挙げている。
- ウ** 人は一人では生きられないという当たり前のことを、誰もがすぐに理解できないので、それを理解するための支援団体がある。
- エ** 幼稚園で学んだことは、基本原則だけではなく、応用的なものや深い知識であり、生きる上で必要なすべてだと言える。

三

高校3年生の時田秀美は進路に悩んでいたが、そのことについて同級生の黒川礼子や、年上の彼女である桃子さんに厳しい言葉を浴びせられる。次の文章は、秀美が進路について悩みつつも夏休み前の日々を過ごしていたときのことである。次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

そんなある日、授業中に、ぼくの祖父が倒れたとの連絡が入った。ぼくは、桜井先生に早退の許可をもらい、病院に駆けつけた。途中、電車の中で、ただぼんやりと窓の外を見ていた。心配するというより、何か、不思議な思いが、胸の内に湧いていた。ぼくは、朝、いつも通りに散歩に出掛けた祖父の姿を思い浮かべた。とても元気だった。しかし、彼が、確実に、数年の内には死を迎える年齢であったことに気が付いて唖然とした。倒れたのは奇妙なことでも何でもないのだ。ぼくは、時が、いつのまにかゆるやかに流れていったように思っていたが、それは祖父にとっても同様のことだった。それまで、自分の時の流れは、水とは違い上に向いていたように思っていたが、どうやら錯覚であるらしいと、今、感じていた。人がいつかは必ず、死に辿り着くという当たり前のことを思い出して溜息をついた。時間を上に押し上げて流していると思うのは、エネルギーという名の傲慢さではないのか。ぼくたちは、本当は、ただ流れて行っているだけではないのか。そう思うと、錯覚ばかりが交錯しているのが人間の一生のように思えて来る。将来のため、と大人たちは言う。しかし、将来とは確実に、握り締められる宝であり得るのか。手にしたら消えて行く煙のようなものではないのか。

病室に行くと母はまだ来ていなかった。担当している作家の原稿が、まだ出来ずに、横浜に行っているということだった。死んだって知らないぞ、とぼくは怒りを覚えたが、幸い祖父の容態はたいしたことなかった。医師の話によると心臓が少しばかり、いかれているだけなんだそうだ。お年がお年ですからね、とにこやかに話す医師の顔を見て、ぼくは力が脱けた。お年がお年という言葉は感じが悪くないと思つた。人は、お年になれば誰もが死ぬという事実は、孤独感を伴わない。

ぼくは、眠っている祖父の側に腰を降ろした。この人が死んだら嫌だなあと思つた。彼も、多分、ぼくを残して死ぬのは嫌だろうなあ、と、そこまで思うと、なんだかやるせなくなつた。それは、大きな悲しみというより、ひとり分の空間が出来ることへの虚しさと呼び覚ます。人間そのものよりも、その人間が作り上げていた空気の方が、ぼくの体には馴染み深い。笑いや怒りやその作り出す空気の流れは、どれ程、他人の皮膚に実感を与えることか。多くの人は、それを失うことを惜しんで死を悼む。

生きていることは錯覚ばかり、とぼくは病院に来る途中に思つたけれども、残す空気は、形を持たずして、実感を作り上げるのだ。しかし、その空気により他人に記憶を残せなかった人間は虚しい。やがて灰になるなら、重みある空気て火を燃やしたい。

それにしても、いつも意気さかんな祖父が、大人しくベッドに横になっている姿は妙である。ふざけて、おじいちゃん安らかに眠ってま
すねと囁いたら、彼は、突然目を開けて、ぼくをにらんだ。

「まだ、死んでないぞ」

「そのようですね」

「美しい女性を見かけたので追いかけてみようとしたら、何故かぶつ倒れたのだ」

「美しいって……どうせ六十、七十のおばあちゃんでしょ、まったく呆れちゃうよ」

「それでも年下だ。年下の女性に目がないのだ」

ぼくは、やれやれと言うように I をすくめた。初志貫徹というか、これだけ自分を貫き通している人も珍しい。

「仁子に聞いたが、大学に行くか否かで悩んでるそうじゃないか。結構、結構」

「何が結構なのさ、なんか、ぼく、うんざりだよ」

「このところ暑いからなあ」

「そういうんじゃないですよ、おじいちゃん。なんか焦ってるんですよ。焦燥っていうんですよ」

ぼくは、近頃、自分が抱えているもやもやとした心の状態を話した。黒川礼子や桃子さんに言われたきつい言葉のことなども。祖父は、
X、呑気に頷いていた。

「体に合わない服を着せられた子供とは、桃子さんも良いことを言う。おじいちゃんの場合は秀美と反対だ。いつのまにか、着ている洋服が
小さくなり過ぎてるのに気付かなかったから破けてしまったらしい。いやはや、今さら繕っても仕方がないし、ぼろをまとしてこのまま行く
か」

「でも、心は錦ですよ、おじいちゃん」

「馬鹿者！ 演歌のような台詞を口にするな。私は演歌が大嫌いなのだ。私は、貧乏という試練は甘んじて受けるが、貧乏臭いのはお断りな
のだ」

なるほど。しかし、ぼくの心の状態は、今、どちらかというと貧乏臭い。少しも潔くないような気がする。ぼくは、ぼんやりと病室の壁
を見詰める。病室というのは、保護されたためいき空気を漂わせている。ぼくは、とても、穏やかな気分になっている。それは、きっと、体が
健康だからだろう。本当は、死と隣り合わせのあらゆる不安と孤独が、あちこちに無言のまま散らばっているのだ。

「どうせ、人って死ぬのかと思うと、将来ってどういう意味があるのかって考えちゃうよ。それまでじゃない。ぼく、来る途中、考えてたんだ。煙をつかむようなものだって」

祖父は、興味深そうに、ぼくを見詰めた。

「煙をつかむのに手間をかけて何が悪い。秀美、そういうことをダンディズムと呼ぶんだぞ。まあ、悪あがきと言えないこともないが、格好の悪いことでは決していないぞ。物質的なものなんぞ、死んだら終わりだ。それなら煙の方がましだ。始末に困らないからな。困らないものがあったい何なのか、おまえにもその内、解る時が来るだろうよ」

そんなものかなあと思っていたら、勢い良くドアが開いた。母が息を切らして立っていた。

「お父さんたら！ 元気なんじゃありませんか！」

祖父の、おあいにくさま、という言葉聞いた途端、母は、へなへなと床に座り込んだ。

「大丈夫？ 母さん」

「大丈夫じゃないわよ！ もう、死んだかと思つてびっくりしちゃつて、そしたら、お医者さまが、二、三日で家に帰れるって言うし、きーっ！ どうしてくれるのよ、このハイヒールの踵かかと！ シャルル・シヨルダンの新品なのよ、五万八千円もするのよお！」

靴の踵の皮が見事に剥むけていた。やはり、母も死を予感して慌てたのだろうか。祖父が死んだら途方に暮れるであろう自分を思い、走り続けたのだろうか。皮膚に刻まれた祖父の残した実体を失いたくないと切望して、ここに向かったのに違いはない。なかなか親思いの娘じゃないか、母さん、と思う一方、人は、自分の体に残された他人の刻印の威力を死というものを間近に感じた時に思いしるのだと、ぼくは、改めて感じた。

「いいじゃないか、靴くらい」

「秀美ったら！ 五万八千円なのよ！」

ぼくは、吹き出しそうになりながら祖父を見た。

Ⅱ

を追いかけてたって、体が消えちゃえば、

(山田詠美『ぼくは勉強ができない』より)

問一 部①～③の本文中における意味として最も適切なものを、あとのア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

① 傲慢さ

ア 無関心な態度

イ 朗らかな温かい態度

ウ ヘリくだった態度

エ 人を見くだす態度

② 錦

ア 美しく立派な

イ みすばらしい

ウ 高貴で気高い

エ 勢いのある

③ 甘んじて

ア 喜んで

イ 仕方なく

ウ 満足して

エ 飽き飽きして

問二

部A「お年がお年という言葉は感じが悪くないと思った」とあるが、そう思った理由を説明したものとして適切なものをあとのア～エから一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 祖父が倒れた原因が誰のせいでもなく、祖父の年齢を考えて体調を気遣うことのなかった家族が責められなかったことで安心する気持ち。

イ 祖父が倒れたことで不安でいっぱいだったが、親切で協力的な医者が担当であることが分かり、なんとかかなりそうだと頼もしく思う気持ち。

ウ 祖父に限らず、年をとれば誰もが死ぬと言う意味が込められた表現によって、全ての人に共通する死を孤独感なく受け入れられそうな気持ち。

エ 祖父がいつ死んでもおかしくないと分かったことで、自分自身の気持ちの準備ができた結果、強く生きていかなければと決心する気持ち。

問三 本文中 Ⅰ } Ⅱ について次の問いに答えなさい。

① 本文中 Ⅰ には体の一部を表わす語句が入るが、その語句を漢字一文字で答えなさい。

② 本文中 Ⅱ には「現実」の対義語が入るが、その二字熟語を漢字で答えなさい。

問四 本文中 X に当てはまる言葉として最も適切なものをあとのア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

ア まるで天気予報でも聞くように

イ まるで緊急車両のサイレンでも聞くように

ウ まるで初めて聞いた音楽でも聴くように

エ まるで子供が親に怒られるように

問五 — 部B「着ている洋服が小さくなり過ぎてるのに気付かなかったから破けてしまったらしい」とあるが、それはどういうことか。

解答欄に合うように、 — 部Bより前の部分から十五字以内で抜き出して答えなさい。

ということ。

問六 — 部C「物質的なものなんぞ、死んだら終わりだ」とあるが、本文において最も物質的なものとして描かれているものは何か答えなさい。

問七 — 部D「皮膚に刻まれた祖父の残した実体」とあるが、それはどのようなものか、本文中の言葉を使って三十字以内で説明しなさい。
ただし、解答には次の語句を必ず使用しなさい。

実感

問八 次のア～エは、本文について生徒たちが話し合っているものである。本文の解釈や特色として適切でないものをあとのア～エから一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 生徒A「主人公の『ぼく』の視点で語られる文章が、高校3年生という大人と子供の間で揺らぐ不安定な気持ちを率直な気持ちで表現していると感じたな。特に部Aの部分は将来に悩む高校生の漠然とした不安が読み取れたよ」

イ 生徒B「そうだね。でも、文章の表現や軽快なやりとりのおかげで悩みや死について深刻にならずに考えられるよね。部イでは『ぼく』の素直さと軽快な表現によって、読者に対して重くならず死について考えさせることに成功していると思う」

ウ 生徒C「確かに深刻な問題を自然体に構えて捉えることに成功していると思うよ。でも、部ウを見て欲しいな。このひと言で『ぼく』が考えることを完全に放棄してしまったことは残念だね」

エ 生徒D「みんなは、最後に『ぼく』の母親の『仁子』についてはどう思った？ 私は『ぼく』『祖父』『仁子』がそれぞれ独自の視点と個性を持っていて、それぞれが重なり合って文章全体の軽快さを作り上げているんだと思うわ」

四

次の古文は、江戸時代後期の儒医である橘南谿が日本の各地を巡り、現地で見聞きした出来事を基に編纂した『西遊記』の一節である。次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

肥後国ヲクニといふ所は深山にて豊後に隣れる地なりといふ。色々珍らしき事も多しと聞きしかば、余も其地に遊ん事を欲せしかど、道の都合あしくてやみぬ。村井氏の語られしは、此尾国の近きあたりに毒水あり。小さき谷川の流れなり。諸の禽獣此流れを吞ば即死す。鳥獣の枯骨あまた此傍にありとぞ。然るに人にはかつて毒せず。此流れの下に村里もありて、人皆汲て用ゆれども、つゝに毒にあたるものなし。犬も亦、死せずとぞ。すべて常に塩氣の物を食ふものには、此水の毒あたらず。村井氏もみづから行きて、試みられしに、何の奇妙もなし。是は砒石、礬石、礬石などの伏せる所にて、その氣を醸して出る水なるべしとなり。いとめづらしき事なり。然れども知る人稀なり。

(中略)

余も諸国に遊びしかども、いまだ毒ある水を見X。すべて毒はみな極熱の物ゆへに、たとへ何の毒にあたるにも、冷水を飲めば必に解す。其故に冷水の中に毒の生ずる事は至て珍らしき事なり。C行きて見ざりつるは今に残り多き事なり。D

*1 砒石 砒素を含む鉱物の一種、猛毒。礬石もその一種。

*2 礬石 硫黄を含んだ鉱石。

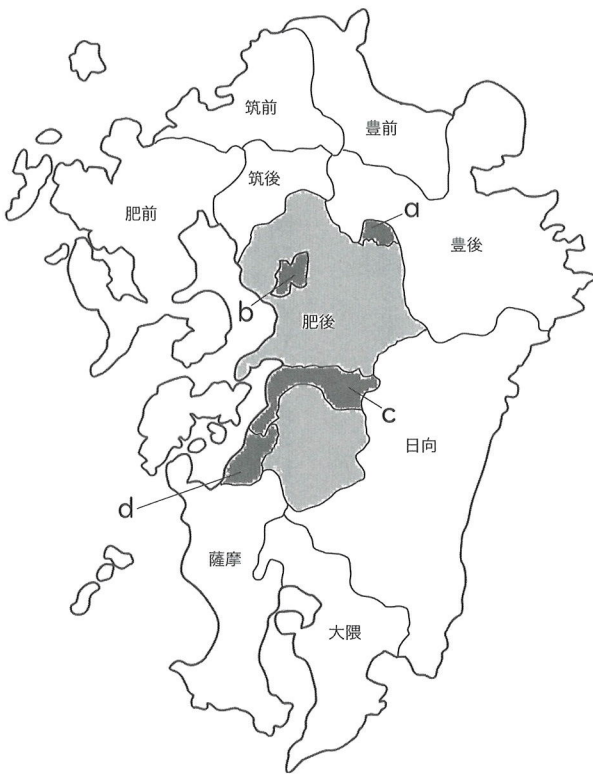
(橘南谿『西遊記』より)

問一 部①「遊」とあるが、本文中の意味と同じ意味で使われている「遊」をあとのア～エから一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 豪遊 イ 遊休地 ウ 遊覧船 エ 遊戯

問二 部②「つゐに」、③「たとへ」を、現代仮名遣いに直してひらがなで答えなさい。

問三 次の図は江戸時代、九州地方を簡略的に示した地図である。——部A「尾国」の場所として最も適切な場所をあとのa～dから一つ選んで記号で答えなさい。



問四 — 部B「毒水あり」とあるが、毒水によって死ぬものと死なないものがあるのはなぜか。本文中の言葉を使って二十五字以内で答えなさい。

問五 本文中

X

 に入る助動詞として最も適切なものをあとのア～オから一つ選んで記号で答えなさい。

ア む イ し ウ ず エ つ オ さす

問六 — 部C「行きて見ざりつる」とあるが、「直接行つて見なかった」という意味である。なぜ筆者は直接見に行かなかったのか、その説明として最も適切なものをあとのア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

ア 急ぐ旅のため、尾国に寄り道するための時間をとることができなかったから。
イ 尾国に行くための道が悪路となっていたので通ることができなかったから。
ウ 毒の水は近くに行くだけで、生き物に影響を与えるので近寄れなかったから。
エ 解毒剤を手に入れられなかったので、危険性を考えて行くことを諦めたから。

問七

——部D「残り多き事なり」とあるが、「残り多き」とは「とても名残惜しい」という意味である。筆者はなぜそのように思っているのか。次の文末に合うように、本文中より**二十字以内**で抜き出して答えなさい。

だから。

問八

『西遊記』と同じ文学ジャンルに属する作品として最も適切なものをあとのア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

ア 枕草子

イ 平家物語

ウ 東海道中膝栗毛

エ 奥の細道

問題は以上です。

名 前

※印の枠内には記入しないでください。

		一
問二	問一	
①	④ 誤	① 誤
②		
	↓ 正	↓ 正
③		
	⑤ 誤	② 誤
④		
	↓	↓
⑤	正	正
		③ 誤
		↓ 正

3

8

[illegible]

3

[illegible][illegible]